



韓国仁川大学の中国・華僑文化研究所 —地域に根ざした中国・華僑研究—

李正熙（仁川大学中国学術院教授）

仁川大学が位置する仁川は、黄海を挟み中国大陸と一衣帯水にあり、両地域の人的、物的交流は古代まで遡ることができる。しかし、終戦直後の東西冷戦の形成と中国大陸の共産化によって、両地域の交流は1992年の韓中国交正常化に至るまで、中断を余儀なくされた。しかし、修交以降、仁川は韓国で最も古いチャイナタウンを有する都市として、韓国の対中国貿易及び両国交流の窓口として期待されてきた。

仁川大学は韓中修交という両国関係の大転換に合わせて、1990年代初めから中国研究に乗り出した。その一環で立ち上げられたのが「中国・華僑文化研究所」である。本研究所は、韓国政府教育部が韓国に世界レベルの地域研究機関をつくるために導入した「人文韓国(Humanities Korea, HK)事業」に応募して採用された。この採用によって、本研究所は2009年から10年間にわたって政府から毎年約10億ウォン(約1億円)の資金提供を受けてきた。

「人文韓国(HK)事業」は韓国の人文学発展のために政府が意欲的に取り組んだ大型プロジェクトの柱で、日本の科学研究費助成事業と似たような制度である。しかし、この事業は日本の科研と異なる点がある。すなわち、韓国政府より研究助成金の支援を受ける研究所は、所属大学の他の教授と身分及び給料において同等の待遇を与えられることが義務付けられ、事業期間満了後には正規の教授として続けて勤務することが保障される。本研究所は5名の専任教授と5名の



写真1 中国慣行研究の書籍成果



写真2 華僑慣行研究の書籍成果

契約研究員を採用して、「韓国の中国研究と研究基盤の再構成：近現代中国の社会・経済慣行調査及び研究を通じた世界的中国・華僑研究資料センターの設立」というテーマで調査及び研究を行ってきた。来年は事業の最終年に当たり、現在これまでの研究調査及び研究成果を総まとめする作業を行っている。

本研究所の事業テーマは、中国・華僑の慣行研究を通じて過去と現在を貫通する、本質的な「中国像」の提示を目標としている。中国・

華僑を短期的な観点より中国・華僑社会を長期間にわたって動かしてきた内的秩序を深層的かつ有機的に把握するため、人文科学と社会科学の両方を分析手段とするだけでなく、両科学の融合的分析も行ってきた。

以下は、本研究所が去る10年間にわたって行ってきた研究成果を中国と華僑の領域に分けて、紹介するものである。まず、中国の社会・経済の慣行に関する主要な研究成果を紹介する。中国の社会慣行研究は、家族・種族、同郷及び同業組織、民間信仰・秘密結社、郷村組織などを中心に行ってきた。本研究所は2012年に『中国家族法令資料集』を清代、中華民国期、中華人民共和国期に分けて2冊、中国族譜資料を基に『中国宗族資料選集』1冊を刊行した。孫承希の著書(2018)は、中国河北大学の中国社会経済史研究所が長期間にわたって収集してきた、明代から中華民国期の民間契約文書のうち分家関連の54件の史料提供を受けて行った研究成



写真3 中国・華僑関連資料集

果である。中国の相続は韓国と異なって均分相続であることと、時期によって変化はあるものの、根本的な相続慣行には変化が見られなかったということを明らかにした。本研究所は、中国の社会慣行において主要な部分である社会团体について研究を行った。本研究所は吉林大学哲学社会学院社会学系と協力して、2013年7月から約13ヶ月間吉林省所在の同郷商会である広東商

会と河南商会の關係者を深層インタビューした。このような証言をまとめたのが張豪俊等の著書(2015a・2015b)である。これらの資料集には、同郷商会の技能、運営方式、地域社会との関係、運営の問題点などが含まれている。朴敬石等の著書(2015a)は吉林省社会科学院歴史研究所の研究員と協力して中国の民間信仰について中国東北を対象に分析を行った研究成果である。この研究は、移民で成り立っている中国東北に中国の他の地域と異なる民間信仰が見られることを明らかにした。

次は中国の経済慣行に関する研究成果である。経済慣行については、主に中国東北を対象に分析を行った。朴敬石等の著書(2015b)は南開大学商学院との共同研究の成果で、企業及び商業の慣行が企業経営にどのような役割を果たしているかについて、関係者へのインタビューに基づいて分析を行った。金志煥等の著書(2015)は中国東北の企業及び金融の発展過程について、金希信等の著書(2015)は伝統的中国の経済慣行を商人団体などの分析を通じて明らかにした。許恵潤の著書(2018)は河北大学の中国社会経済史研究所から提供された土地取引文書を分析し、清代から中華民国期までの土地取引の慣行をまとめた研究成果である。中国の複雑な土地制度の変遷の歩みを、清代から近代までの長期にわたって分析かつ整理した李沅竣の研究成果は来年に刊行される。

本研究所は先述したごとく、華僑研究を中国研究の重要な柱として位置づけて研究を行ってきた。華僑研究は、中国の社会・経済の慣行が中国人の海外移住によって居住国の政治経済システム及び社会・経済慣行と接触



写真4 中国・華僑文化研究所のホームページ

していかなる変容をするのか、変容しない慣行は何かについて、という軸を中心として検討してきた。

仁川には1884年清国租界が開設されて、約134年の歴史を有するチャイナタウンがある。本研究所は長期間の努力の末、2013年11月に仁川華僑協会と同協会所蔵の資料をすべて調査し、その結果を公表すると同時に、資料をデジタル化することを盛り込んだ契約書を締結した。この合意によって、本研究所は同協会の倉庫に100年間眠っていた資料を約1年間にわたって調査及びデジタル化作業を進めた。その結果、3,019件の資料が整理され、そのうち文書資料は1,378件、写真・印鑑などの非文字資料は1,641件であった。このような「仁川華僑協会所蔵資料」は1905年から約100年にわたって同協会によって生産された資料であり、世界的にも稀に見る華僑社会団体の資料群である。本研究所はこの貴重な資料を活用して仁川華僑の歴史を研究した。李正熙・宋承錫の著書(2015)は近代時期仁川華僑の社会活動と経済活動を分析した研究成果である。この研究によって、これまでベールに包まれていた仁川華僑の歴史が明らかにされた。宋承錫・李正熙の著書(2015)は仁川華僑の義地(墓地)にかかわる歴史をまとめた研究成果である。

本研究所は仁川華僑に限定せず、近代時期の朝鮮華僑と韓国華僑及び北朝鮮華僑を網羅する朝鮮半島華僑を視野に入れて、その社会・経済慣行を中心に研究を行った。李正熙の著書(2018)は中国人の朝鮮半島移住が本格化する1880年代から朝鮮戦争が勃発する直前までの約60年間の朝鮮半島華僑の歴史を経済史的に分析し

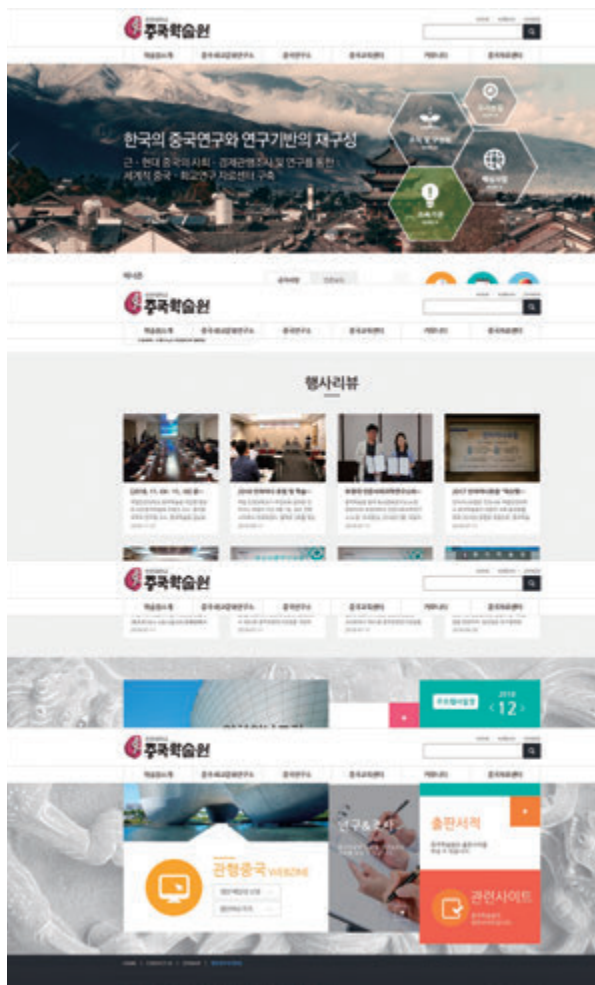


写真5 中国学術院のホームページ

た研究成果である。朝鮮華僑は華商、華工、華農として相当な経済的勢力を築き、日本人及び朝鮮人に脅威を与えるほどであったことを明らかにした。なお、華僑の社会団体、華僑学校、民間信仰及び宗教、そして朝鮮人及び日本人社会との関係を網羅した、朝鮮半島華僑の社会史(李正熙(2019))を来年に刊行する。本研究所は北朝鮮華僑の専門家である宋伍強教授(広東外語外貿大学)の協力を得て、朝鮮半島華僑事典を編纂する作業を進めており、来年の刊行を目指している。このような研究成果は、世界華僑史の空白になっている朝鮮半島華僑の歴史を復元する役割を果たすことになるであろう。

本研究所はこのような研究成果に基づいて中国・華僑研究をより一層発展させると同時に、研究成果の社会還元を目指して、中国学術院を立ち上げた。本研究所が中国学術院の中心となっている。中国学術院及び本研究所は、世界の中国研究機関と研究交流及び共同研究をより一層深め、世界の中国学に貢献できることを願っている。(2018年執筆)



写真6 中国・華僑文化研究所資料センターのホームページ

<参考文献> (五十音順)

安致穎等 (2015)、『中国民間組織の政策文件』(韓国語)、学古房

李沅竣 (2019 出版予定)、『中国土地制度変遷誌』(韓国語)、学古房

李正熙 (2018)、『朝鮮半島華僑史: 近代初期から植民地期までの経済史』(韓国語)、図書出版東アジア

李正熙・宋承錫 (2015)、『近代仁川華僑の社会と経済』(韓国語)、学古房

李正熙 (2019 出版予定)、『朝鮮半島華僑の社会史』(韓国語)、図書出版東アジア

李正熙・宋承錫・宋伍強 (2019 出版予定)、『朝鮮半島華僑事典』(韓国語)、図書出版東アジア

王永晋・宋承錫 (2017)、『それでも生きなければならなかった: 汪兆銘政権下のある駐朝鮮領事の手記』(韓国語)、学古房

金希信等 (2015)、『中国東北地域の商人と商業ネットワーク』、学古房

金志煥等 (2015)、『中国東北地域の企業と金融』(韓国語)、学古房

金判洙 (2018)、『上海の韓国人、再び境界に立つ』上・下 (韓国語)、学古房

許惠潤 (2018)、『民間契約文書で見た中国の土地取引慣行』(韓国語)、学古房

宋承錫・李正熙 (2015)、『仁川に眠った中国人たち』(韓国語)、学古房

全仁甲 (2016)、『現代中国の帝国夢: 中華の再普遍化 100 年の実験』(韓国語)、学古房

孫承希 (2018)、『中国の家庭、民間契約文書で何う: 分家と相続』(韓国語)、学古房

張豪俊等 (2015a)、『中国の同郷商会: 吉林省同郷商会面談調査資料集』(韓国語)、学古房

張豪俊等 (2015b)、『中国民間組織の一断面: 吉林省同郷商会口述集』(韓国語)、学古房

朴敬石等 (2015a)、『近代中国の東北地域社会と民間信仰』(韓国語)、学古房

朴敬石等 (2015b)、『東北地区企業行為と商業慣例研究』(中国語)、中国発展出版社